

## 2024年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年7月31日

上場会社名 SREホールディングス株式会社 上場取引所 東  
コード番号 2980 URL <https://sre-group.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役 社長 兼 CEO (氏名) 西山 和良  
問合せ先責任者 (役職名) 専務執行役員 CFO 兼 コーポレート戦略推進担当 (氏名) 益子 治 TEL 03-6274-6550  
四半期報告書提出予定日 2023年8月10日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2024年3月期第1四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年6月30日）

## (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	4,290	46.8	202	△12.1	167	△16.8	133	101.0
2023年3月期第1四半期	2,922	63.9	230	30.9	200	19.3	66	△42.4

(注) 包括利益 2024年3月期第1四半期 140百万円 (111.1%) 2023年3月期第1四半期 66百万円 (△42.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	8.28	8.18
2023年3月期第1四半期	4.13	4.10

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第1四半期	24,585	11,468	45.3
2023年3月期	21,956	11,316	50.1

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 11,135百万円 2023年3月期 10,995百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年3月期	—	—	—	—	—
2024年3月期（予想）	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

## 3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	22,300	20.3	2,150	27.5	2,000	29.8	1,430	24.5	88.49

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期1Q	16,162,715株	2023年3月期	16,160,015株
② 期末自己株式数	2024年3月期1Q	337株	2023年3月期	297株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期1Q	16,160,161株	2023年3月期1Q	16,116,381株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当社グループは「今の先鋭が10年後の当たり前を造る A DECADE AHEAD」をミッションに掲げ、大きく2つの事業を展開してまいりました。1つ目の事業は、不動産/金融業界からIT/ヘルスケア領域まで様々な業界のDXに向けて、機械学習等のテクノロジーを活用したモジュールをベースに、パッケージ型クラウドツールやテラーメイド型アルゴリズムを提供する「AIクラウド&コンサルティング」事業であります。2つ目の事業は、お客様への確かな価値提供とテクノロジーの積極活用の両立を目指すアセットマネジメント、売買仲介コンサルティング、デベロップメント/インベストメント事業を展開する「ライフ&プロパティソリューション」事業であります。

実業（リアルビジネス）である不動産や金融、IT/ヘルスケア事業を自ら手掛け、業務上の非効率や課題に直面することで、機械学習等の高度なテクノロジーの活用の可能性を見出し、当社グループの内部オペレーションにそのテクノロジーを取り込み、競争力・効率性の改善を図っております。同時に、リアルビジネスのテック化により効果が検証された業務推進・効率化ツールは、当社自身がユーザーとして使い勝手をフィードバックすることで実務有用性を磨き込み、同業他社のお客様に提供しております。加えて、ツールのベースとなるモジュールを活かすことで、差異化されたコンサルティングを幅広い産業のお客様にご提供するビジネスモデルを構築しております。

実業（リアルビジネス）を手掛けることが、実務有用性の高いAIソリューション・クラウドツールの顧客への提供に密接かつ効果的に機能しており、この「リアルビジネスを内包したテックプロバイダー」という独自の顧客提供価値の追求が、様々な業界のDXや事業拡大に貢献しております。

当社グループが手掛けるAIクラウド&コンサルティング事業の業務環境をみれば、コロナ禍からの社会経済活動の正常化が進む一方で、専門人材不足などの課題が深刻化しております。そのため、省人化や利益拡大を見据えた取り組みをテクノロジーの活用を通じて進める業界横断的なDX気運の高止まりが随所にみられ、実務有用性の高いDXソリューションを提供する当社事業においても追い風となっております。ライフ&プロパティソリューション事業の業務環境をみれば、様々なアセット種別に対する投資ニーズの高まりが引き続き見られます。一方、金利動向の不透明感やマンション価格上昇等により、首都圏の中古マンションの売買成約件数が昨年と比較して下回る状況にあります。

このような業務環境の下、当社グループは従来の不動産領域に加えて、金融やIT/ヘルスケア領域においても事業成長を着実に進捗させ、その他産業に向けても自社の持つAIモジュールを活かしたDXソリューションを提供してまいりました。また当社グループは、ChatGPTをはじめとした生成AIを活用したクラウドソリューション群の競争力強化に向けて、当社グループ独自の一次データを学習させた生成AIの組み込みに着手しております。汎用生成AIはインターネット上に存在する膨大な情報を学習することで、自然な対話形式で一般的な回答を行える一方、インターネット上に情報が存在しない、又は断片的にしかない特定分野の質問に対して精度高く回答するためには、当該分野の一次データを用意し学習させる必要があります。当社グループは「リアルビジネスを内包したテックプロバイダー」として、顧客から獲得したクローズドデータやリアルビジネスの運営により蓄積したオペレーションデータを保有する当社グループの競争優位性を一段と高められると考え、こうした業界特有の一次データを学習した業界特化型パーティカル生成AIの創出を企図しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績につきましては、クラウドソリューション（CS）・アナリティクス&トランスフォーム（A&T）ともに顧客獲得数が着実に伸長し、ARR（アニュアルリカーリングレベニュー）を積み上げられ、特に隣接領域についてはストック収入全体の約2割を占める構成比まで拡大できました。また、ライフ&プロパティソリューションセグメントではアセットマネジメントを中心に体制増強を進めた一方で、スマートプロパティ案件の多くが第2四半期連結会計期間以降に予定されており、コスト先行となることから、売上高は4,290,148千円（前年同期比1,367,775千円増（46.8%増））、営業利益は202,317千円（前年同期比27,911千円減（12.1%減））、経常利益は167,139千円（前年同期比33,847千円減（16.8%減））、親会社株主に帰属する四半期純利益は133,878千円（前年同期比67,264千円増（101.0%増））となりました。

当第1四半期連結累計期間のセグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分及び名称を変更しております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(セグメント情報)」に記載のとおりであります。

#### <AIクラウド&コンサルティングセグメント>

CS(不動産価格推定エンジンなどのディープラーニング技術を核とするパッケージ化されたAIを用いたクラウドサービス)は、開発/販売面でのオペレーション改善や体制強化を進め、課金契約数を着実に増やすとともに、解約率も非常に低い水準を維持してまいりました。

A&T(幅広い業界におけるマーケティング活動、営業活動といった顧客企業の様々な経営課題に対して、将来予測分析ツールを用いた解決策若しくはシステムの提供又は共同ビジネス開発を行うサービス)は、様々な産業知見を持つコンサルタント・データサイエンティストの参画に加えて、レコメンド/画像認識AIモジュール等を活かして差異化されたコンサルティングを提供することで一部ロイヤルカスタマーのリピート案件獲得を拡大し、着実に事業を拡大させてまいりました。加えて、共同開発による新規クラウドソリューションの仕込みを進めました。

その結果、CS・A&Tともに顧客獲得数が着実に伸長し、ARRを順調に積み上げられ、特に隣接領域についてはストック収入全体の約2割を占める構成比まで拡大できたことから、当第1四半期連結累計期間におけるAIクラウド&コンサルティングセグメントの売上高は1,031,096千円(前年同期比340,426千円増(49.3%増))、セグメント利益は351,474千円(前年同期比97,144千円増(38.2%増))となりました。

#### <ライフ&プロパティソリューションセグメント>

当社テクノロジーを活用したアセットマネジメントや売買仲介コンサルティングを提供するとともに、スマートプロパティとして、IoT技術やESG対応を施したマンション/オフィス/ショッピングセンター/ホテル/シニア関連施設等の開発・投資及び投資家向けの販売を計画に沿って実施しております。またファンド規模拡大に向けて、当社物件のファンドに対する継続的な売却及び市場からの厳選取得を行い、棚卸資産を過剰に保有することなく収益性に優れたリカーリングフィーを積み上げる積層型ビジネスモデルの構築に注力しております。当社グループは、これらの事業においてテクノロジーを活用したDX化を推進するとともに、その中で生まれた気づきを幅広いお客様に提供するAIソリューションに反映しております。

その結果、ライフ&プロパティソリューションセグメントではアセットマネジメントを中心にハイレベル人材獲得を進めた一方で、スマートプロパティ案件の多くが第2四半期連結会計期間以降に予定されており、コスト先行となることから、当第1四半期連結累計期間におけるライフ&プロパティソリューションセグメントの売上高は3,420,501千円(前年同期比1,015,576千円増(42.2%増))、セグメント損失は53,227千円(前年同期はセグメント損失4,198千円)となりました。

#### <その他セグメント>

本セグメントでは、中長期的なサステナブルグロースに向けてヘルスケアDX等の新規プロダクト開発投資を行っており、主にプロトタイプ開発や人材獲得等を実施しております。また、プロダクト開発に向けてヘルスケア事業を手掛け、「リアルビジネスを内包した実務有用性の高いテクノロジー」の創出に向けた取り組みを加速しております。

その結果、当第1四半期連結累計期間におけるその他セグメントの売上高は、ヘルスケア事業の事業運営により7,545千円、セグメント損失は新規プロダクト開発投資により43,986千円となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## 資産、負債及び純資産の状況

## (資産)

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ2,628,645千円増加し、24,585,076千円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末より2,539,978千円増加し、21,151,308千円となりました。これは主に、現金及び預金が2,110,996千円減少した一方、棚卸資産が4,262,587千円増加したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末より101,571千円増加し、3,395,055千円となりました。これは主に、有形固定資産が40,851千円、のれんが71,502千円増加したことによるものであります。

繰延資産は、前連結会計年度末より12,903千円減少し、38,711千円となりました。これは、株式交付費が12,903千円減少したことによるものであります。

## (負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ2,475,919千円増加し、13,116,087千円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末より1,238,151千円減少し、4,724,567千円となりました。これは主に、短期借入金743,374千円、未払金が174,072千円、未払法人税等が252,989千円減少したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末より3,714,071千円増加し、8,391,519千円となりました。これは主に、長期借入金3,614,581千円増加したことによるものであります。

## (純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ152,725千円増加し、11,468,988千円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等により、利益剰余金が134,061千円増加したことによるものであります。

なお、自己資本比率は45.3%となっております。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2023年5月10日の「2023年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,837,535	1,726,538
売掛金及び契約資産	636,267	724,487
営業出資金	1,395,931	1,317,498
棚卸資産	12,200,552	16,463,139
その他	542,240	920,097
貸倒引当金	△1,196	△453
流動資産合計	18,611,330	21,151,308
固定資産		
有形固定資産	686,184	727,035
無形固定資産		
ソフトウェア	697,434	696,960
のれん	726,372	797,875
その他	15,853	13,877
無形固定資産合計	1,439,661	1,508,713
投資その他の資産	1,167,638	1,159,305
固定資産合計	3,293,484	3,395,055
繰延資産		
株式交付費	51,615	38,711
繰延資産合計	51,615	38,711
資産合計	21,956,430	24,585,076
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	94,322	70,475
短期借入金	4,281,440	3,538,066
未払金	243,431	69,359
未払費用	557,008	528,018
未払法人税等	324,588	71,598
賞与引当金	177,184	91,146
その他	284,743	355,902
流動負債合計	5,962,719	4,724,567
固定負債		
長期借入金	4,389,671	8,004,252
退職給付に係る負債	66,782	53,884
その他	220,994	333,383
固定負債合計	4,677,447	8,391,519
負債合計	10,640,167	13,116,087
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,147,654	4,150,107
資本剰余金	4,147,654	4,150,107
利益剰余金	2,702,637	2,836,699
自己株式	△1,733	△1,900
株主資本合計	10,996,213	11,135,014
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△989	522
その他の包括利益累計額合計	△989	522
新株予約権	99,226	107,020
非支配株主持分	221,811	226,430
純資産合計	11,316,263	11,468,988
負債純資産合計	21,956,430	24,585,076

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	2,922,373	4,290,148
売上原価	1,924,657	2,875,661
売上総利益	997,715	1,414,487
販売費及び一般管理費	767,486	1,212,169
営業利益	230,229	202,317
営業外収益		
受取利息	0	1
受取配当金	1	2
持分法による投資利益	3,896	—
その他	992	156
営業外収益合計	4,890	159
営業外費用		
支払利息	20,612	17,795
持分法による投資損失	—	2,213
株式交付費	12,921	12,903
その他	598	2,424
営業外費用合計	34,133	35,337
経常利益	200,987	167,139
特別損失		
固定資産売却損	—	9,139
オフィス移転関連損失	104,266	—
特別損失合計	104,266	9,139
税金等調整前四半期純利益	96,720	158,000
法人税、住民税及び事業税	38,954	12,331
法人税等調整額	△8,848	7,171
法人税等合計	30,106	19,503
四半期純利益	66,613	138,497
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	4,618
親会社株主に帰属する四半期純利益	66,613	133,878



(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益	66,613	138,497
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△295	1,512
その他の包括利益合計	△295	1,512
四半期包括利益	66,318	140,009
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	66,318	135,390
非支配株主に係る四半期包括利益	—	4,618

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

## (セグメント情報)

## I 前第1四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年6月30日)

## 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	AIクラウド& コンサルティング	ライフ&プロ パティソリューション	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	517,488	2,404,884	—	2,922,373	—	2,922,373
セグメント間の内部 売上高又は振替高	173,181	41	—	173,222	△173,222	—
計	690,669	2,404,925	—	3,095,595	△173,222	2,922,373
セグメント利益又は損失 (△)	254,329	△4,198	—	250,131	△19,901	230,229

(注) 1. セグメント利益又は損失の「調整額」△19,901千円は、セグメント間取引消去を記載しております。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自2023年4月1日至2023年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	AIクラウド& コンサルティング	ライフ&プロ パティソリューション	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	862,131	3,420,471	7,545	4,290,148	—	4,290,148
セグメント間の内部 売上高又は振替高	168,965	30	—	168,995	△168,995	—
計	1,031,096	3,420,501	7,545	4,459,144	△168,995	4,290,148
セグメント利益又は損失 (△)	351,474	△53,227	△43,986	254,259	△51,941	202,317

(注) 1. セグメント利益又は損失の「調整額」△51,941千円は、セグメント間取引消去を記載しております。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、隣接領域における新規事業開発を各セグメントから切り離し、既存事業と新規事業開発の解像度を向上させることを企図し、報告セグメントを従来の「AIクラウド&コンサルティング事業」及び「不動産テック事業」の2区分から、新たに「その他事業」を追加した3区分に変更しております。

また、当第1四半期連結会計期間より、組織の名称変更に伴い、従来「不動産テック事業」としていた報告セグメントの名称を、「ライフ&プロパティソリューション事業」に変更しております。当該変更は報告セグメントの名称変更のみであり、セグメント情報に与える影響はありません。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分及び名称に基づき作成したものを開示しております。